

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：33604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13888

研究課題名（和文）発達障害等の発達困難を有する非行少年の現状と地域生活移行支援に関する調査研究

研究課題名（英文）Study on the Situations and Challenges in Support of Local Shift of Children and Youth with Juvenile Delinquents and Developmental Disabilities

研究代表者

内藤 千尋 (NAITO, CHIHIRO)

松本大学・教育学部・講師

研究者番号：30734074

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、発達上の課題・困難を有する非行少年への面接法調査を行い、彼らの抱える発達困難や支援ニーズを明らかにした。

調査を通して、少年の抱える各種の発達困難や不安・ストレス等について丁寧に話を聴きながら「不安の原因の可視化」「問題の共有」「解決方法を共に考えていく」という「対話的で伴走的な発達支援」の有効性について確認できた。彼らの社会的自立や地域移行支援では、学校教育への接続や段階的かつ長期的な視点での発達支援が課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、少年院に在院する発達上の課題・困難を有する非行少年に対する面接法調査および北欧諸国への調査を通して、発達上の課題・困難を有する非行少年の発達困難と支援ニーズを明らかにしてきた。

少年院在院者の支援ニーズと発達支援の観点から「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の意義・有効性の検討では、発達支援の観点から少年院の処遇ガイドラインが示されたことに意味があり、一方で学校教育の導入、現代に適合する基礎的環境整備や合理的配慮に基づく発達支援の提供、段階的な地域移行支援等が、今後の改善課題とされた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted interview surveys on the developmental difficulties and support needs of residents with developmental disabilities who are in the juvenile training school.

Through the surveys, while carefully listening to various developmental difficulties, anxiety, stress, etc. that residents with developmental disabilities have, “visualizing We were able to confirm the effectiveness of “developmental development support”. In their social independence and of support local shift of children and youth with developmental disabilities who are in the juvenile training school, connection to school education and the construction of the support network will be problems in future.

研究分野：特別支援教育・特別ニーズ教育

キーワード：発達上の課題・困難 非行少年 少年院・少年矯正 発達支援 地域移行支援 学校教育 北欧

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代では、子どもが「安心・安全」に生きることができる生活基盤や大人になっていくために不可欠な成長・発達の条件・環境を保障されない状況に置かれている。「育ちと発達の貧困」ともいえる状況下により、不安・緊張・ストレスが複雑に絡み合い、自律神経失調症・心身症、抑うつ・自殺、不登校・ひきこもり・中途退学などの心身の発達困難、いじめ・暴力・被虐待、触法・非行などの多様な不適応を有することが報告されている(小野川・田部・内藤・高橋:2016)。

児童福祉施設である児童養護施設や児童自立支援施設、矯正教育施設である少年院においても発達障害等の発達困難を有する非行少年が着目され、非行・犯罪と発達障害等との関係はしばしば指摘されている。非行のリスク要因として渡部(2006)や小栗(2010)は、セルフコントロールの弱さ、衝動性・多動性、低学力、読み書き能力の弱さに加え、しつけ不足や学校不適応等を挙げている。

様々な表現結果の一つとして、虞犯・非行等の「不適応状態」にある彼らは発達の機会から阻害されている可能性があり、教育的ニーズは高いといえる。そのため、地域・家庭・学校や福祉等の関係諸機関の連携による早期の適切な支援が求められている。

図1は、少年事件発生後の手続きの流れを示している。家庭裁判所にて「保護処分」決定の場合に少年は「少年院」「児童自立支援施設」「保護観察」による処遇を受けることになる。

児童自立支援施設に関する申請者らのこれまでの調査からは、発達障害等の特性から集団で動けない等、集団指導における困難と個別指導のバランスが課題とされている(内藤・田部・高橋:2013b)。

少年院は対象少年の発達の状況を理解した上で、非行の反省や結果に対する責任の自覚を促すこととなっている。申請者らがこれまでに実施した全国の少年院・少年鑑別所における発達障害等の発達困難を有する非行青少年の実態調査からは、発達障害等の診断・判定がない場合にも、多様な発達の遅れや身体症状・身体の動きにくさ等の発達困難を有している事例が少なくないことが明らかとなった。

少年院での処遇に関わっては、2015年(平成27年)4月の新少年院法施行による(2014年制定)知的障害あるいは情緒障害・発達障害とまではいえないものの、いわゆるボーダーラインにある少年を対象とした支援教育課程(N3)を新設されることとなった。そのほか、少年院等に社会福祉士や精神保健福祉士が配置される等少しずつ福祉との連携が進められている。

少年非行・犯罪に関わる支援機関の「入口」ともいえる少年鑑別所から「出口」といえる保護観察所や家庭・学校・福祉・地域までの一貫した支援が求められている。少年院に入院する少年もいずれ社会に出て行くが、彼らが実際に少年院出院後の自立や社会適応に向けた具体的スキルの獲得を行う過程での困難や出院後に社会に適応できず、再非行に至る可能性も少なくない。

現在、矯正施設等からの退院者のうち障害者(・高齢者)に対する支援として「地域生活定着支援センター」の取り組みがある。そこでは障害者等の支援を必要とする矯正施設からの出所者に対して、地域社会に適応させるための福祉的支援(「つなぐ」役割)が行われている。

更生保護施設では障害者などの処遇困難者を受け入れる指定更生保護施設を指定し、社会福

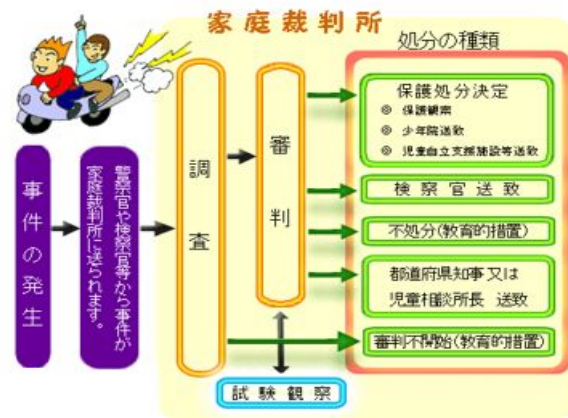


図1 「少年事件の処分について」裁判所HPより引用

社士を配置して支援にあたっている（木村・佐脇：2013）。一般社団法人よりそいネットおおさか（2014）の更生保護施設調査では、指定更生保護施設においても福祉サービスに繋ぐというよりは生活保護の活用が中心であることや非行少年の受け入れがきわめて不十分（男子少年は全体の4.5%、女子少年7.5%）という実態が示されている。

発達障害等の発達上の困難を有する非行少年の成長発達や就労・社会的自立に向けての支援を構築していくためには、矯正教育施設・保護観察所・更生保護施設と福祉・家庭・学校・地域等の連携のもと、本人の「声・ニーズ」を大切にしながら継続的な支援が不可欠である。矯正教育施設等を出た後に福祉的就労のみならず、学校教育への移行支援を行うなどして、発達支援をいかに継続的に保障するのが課題となっている（内藤千尋・高橋智・法務省矯正局少年矯正課：2015、高橋智：2015、東京学芸大学高橋智研究室・法務省矯正局少年矯正課：2016）。

2．研究の目的

本研究では、発達障害等の発達困難を有する非行少年本人へのニーズ調査、保護観察所等職員（保護観察官・保護司・更生保護施設職員・自立準備ホーム職員）への面接法調査、地域生活定着支援センター職員調査を通して、福祉・矯正・教育において求められている発達支援・地域移行支援の課題や機関連携の在り方を検討することを目的としている。

本研究を通して、少年非行・矯正教育分野における発達障害等の発達困難を有する少年に対する矯正教育の課題を明らかにすることで、今後の特別支援教育と矯正教育の連携のあり方や発達支援の課題が明確となる。また本研究を通して、発達障害等の発達困難を有する非行少年に関する共通の困難やそれぞれの支援方法を知ることによって、学校教育と矯正教育等施設及び福祉の連携の必要性が明らかとなるだけでなく、早期の予防的措置や機関連携・地域支援ネットワーク構築のきっかけとなることが予想される。

3．研究の方法

（1）先行研究のレビューを通して、国内外における少年非行と発達障害等の発達困難に関する政策、議論の動向や支援体制の状況、課題を明らかにする。

（2）発達障害等の発達困難を有する少年の矯正教育・更生保護において先進的な取り組みを行っている北欧スκανジナヴィア諸国（スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・フィンランド・アイスランド）の非行・犯罪に対する地域社会支援に関する実践についての調査を実施する。

（3）全国51庁の少年院職員、全国82ヶ所の保護観察所等職員、全国48ヶ所の地域生活定着支援センター対象の訪問面接法調査を実施し、発達障害等の発達困難を有する非行少年の困難・ニーズの実態や自立に向けた発達支援の現状を明らかにする。

（4）少年院・少年鑑別所や更生保護を経験した発達障害等の発達困難を有する非行少年への発達支援・地域移行支援のニーズ調査を通して、少年本人が求めている少年鑑別所・少年院・保護観察所・更生保護施設等における発達支援・地域移行支援の課題を明らかにする。

4．研究成果

北欧スκανジナヴィア諸国（スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・フィンランド・アイスランド）の非行・犯罪に対する地域社会支援に関する実践に関する訪問調査

非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者の発達支援において先進的な取り組みを行っているアイスランドとフィンランドを取り上げ、「国立の子ども教育施設 スタドラ Stuðlar」（アイスランド）、「国立の子ども教育施設 ヴオレラ教育施設 Vuorelan Kouluoti」

(フィンランド)、「非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者対象の自治体行政サービス Nuorten Tiimi」(フィンランド)の取り組みを紹介し、それをふまえて日本における非行・触法等の不適応に至っている発達上の課題・困難を有する子ども・若者の発達支援の課題を検討した。

非行・触法等の不適応に至っている発達上の課題・困難を有する子どもに直接的な責任を求めるのではなく、子どもを取り巻く環境システム(家庭・学校・教師・地域・友人等)に対する支援(環境調整)を充実させていくことが日本の当面する重点課題の一つであると考えられる。非行・触法等の不適応に至っている発達上の課題・困難を有する子ども・若者の支援を、学校教育を保障しながら地域のなかで継続して行うことが彼らとその家族を社会から切り離さないことに繋がるのであり、学校教育を軸とする地域支援システム構築の具体的な検討が日本において喫緊の課題となっている。

【論文掲載】高橋智・内藤千尋・田部絢子(2019)北欧における非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者の発達支援の動向 アイスランドとフィンランドの訪問調査から、『矯正教育研究』第64巻、pp.93-100、日本矯正教育学会。

少年院・少年鑑別所や更生保護を経験した発達障害等の発達困難を有する非行少年への発達支援・地域移行支援のニーズ調査

A少年院において「支援教育課程 (N3)」に指定された男子少年26名(のべ実施数34名)への半構造化面接法調査および担任等の法務教官との協議を通して、少年院における発達障害等の発達上の課題・困難を有する少年の困難・支援ニーズの実態や発達支援を充実させていくための課題を検討した。

発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年は、少年院における24時間体制の安定した支援を通して、心身ともに安心できる生活環境・人間関係を確保されていた。生活リズムの整った生活環境(衣食住と健康)の保障と法務教官に「しっかりと向き合ってもらい、話を聞いてもらう」指導を通して、少年らの行動の背景にある「不安・緊張・ストレス等」を軽減し、それまでの生活の中で喪失していた「自己と他者への信頼」を回復させ、発達を一気に加速させたと考えられる。少年院における処遇の在り方を検討するにあたり、彼らの発達の課題を支援していく「伴走的発達支援」の意義と効果を検証していくことと、『発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン』をふまえた対応の具体化が不可欠である。

【論文掲載】内藤千尋・小山定明・佐野雅之・田部絢子・高橋智(2018)少年院における発達上の課題を有する少年の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題 「支援教育課程 (N3)」在院者への面接法調査を通して、『矯正教育研究』第63巻、pp.134-142、日本矯正教育学会。

少年本人が求めている少年鑑別所・少年院・保護観察所・更生保護施設等における発達支援・地域移行支援の課題検討

これまでに実施してきた発達上の課題・困難を有する少年院在院者に対する面接法調査結果(少年院3施設、のべ160名、2016年~2019年実施・現在も継続中)をもとに、少年院在院者の声・支援ニーズと発達支援の視点から、「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の意義・有効性および改善課題(少年院の教育環境、支援内容・方法)を明らかにした。

少年の更生・「育て直し」に向けた教育・支援を行う少年院において、発達(発達支援)の観点から処遇が再検討されていることや処遇のガイドラインが示されたことは大きな意味をもつ。

その上でさらに、学校教育の導入、現代に適合する基礎的環境整備や合理的配慮に基づく発達支援の提供、少年本来の「良さ」を半減させてしまう少年院独特のルール等が、当面する緊要な改善検討課題である。

【論文掲載】内藤千尋・田部絢子・高橋智（2020）「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の検討と改善課題 発達上の課題・困難を有する少年院在院者への面接法調査を通して、『矯正教育研究』第65巻、pp.114-121、日本矯正教育学会。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 第64巻
2. 論文標題 北欧における非行・触法・薬物依存等の発達困難を有する子ども・若者の発達支援の動向 アイスランドとフィンランドの訪問調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 93 -100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6743号
2. 論文標題 ゆっくりと確実に立ち直る非行少年 - 発達困難のある少年院在院の少年（上）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 6745号
2. 論文標題 強い不信・抵抗感を少しずつ克服 発達困難のある少年院在院の少年（下）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋	4. 巻 第70集
2. 論文標題 北欧における障害者の生涯学習と発達支援 スウェーデン・デンマーク・アイスランドへの訪問調査を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 217 -234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・高橋智	4. 巻 第70集
2. 論文標題 北欧における特別学校と障害の重い子どもへの取り組み スウェーデン・デンマークへの訪問調査を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 .235 -246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・高橋智	4. 巻 第70集
2. 論文標題 北欧における発達障害等を有する子どもの発達支援の取り組み スウェーデンとアイスランドの医療機関・発達支援機関への訪問調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 247 -264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石川衣紀・石井智也・能田昂・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智	4. 巻 第70集
2. 論文標題 北欧における子どもの虐待と権利擁護センターの取り組み スウェーデン・アイスランド・ノルウェーへの訪問調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 265-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・小山定明・佐野雅之・田部絢子・高橋智	4. 巻 63
2. 論文標題 少年院における発達上の課題を有する在院者の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題 「支援教育課程 (N3)」在院者への面接法調査を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 134-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・内藤千尋・田部絢子・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智	4. 巻 第71集
2. 論文標題 北欧における子どもの虐待と「子ども虐待防止支援センター（Barnahus）」の取り組み：デンマーク・フィンランドへの訪問調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 177-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 65
2. 論文標題 「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の検討と改善課題 発達上の課題・困難を有する少年院在院者への面接法調査を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 114-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・池田敦子・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 8
2. 論文標題 北欧と日本の児童虐待防止システムの実態と課題に関する比較調査研究 北欧の「子どもの権利擁護センターBarnahus」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 FERI未来教育研究所紀要	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 131(4)
2. 論文標題 少年院における発達上の課題・困難を有する少年への面接・発達相談の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 刑政	6. 最初と最後の頁 42-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・高橋智	4. 巻 62
2. 論文標題 北欧における非行・薬物依存・犯罪を有する青少年の発達支援の動向 スウェーデン・デンマークの当事者支援を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 108-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 23 (1)
2. 論文標題 発達障害等の発達困難を有する非行少年の社会的自立・地域移行の実態と支援に関する調査研究 全国の保護観察所職員・保護司等の調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 6639
2. 論文標題 スウェーデンの国立非行少年教育施設 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋	4. 巻 6641
2. 論文標題 アイスランドの非行少年への発達支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 6643
2. 論文標題 フィンランドの非行少年への発達支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・田部絢子・内藤千尋・石川衣紀	4. 巻 6646
2. 論文標題 スウェーデンなどでの非行等の当事者支援 北欧における子ども・若者の特別ケアの動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 内外教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 69
2. 論文標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の地域移行・定着の実態と支援に関する調査研究 全国の保護観察所・更生保護施設・保護司等の調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要総合教育科学系	6. 最初と最後の頁 57-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の実態と発達支援の課題 B少年院に在院する少年調査を通して
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・石井智也・田部絢子・石川衣紀・能田昂・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 ノルウェーにおける女性刑務所と若者支援の取り組み
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・柿崎伸二・小山定明・菅谷裕・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における発達上の課題を有する少年の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題（その2） 「支援教育課程（N3）」在院者への面接法調査を通して
3. 学会等名 日本矯正教育学会第54回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達困難を有する非行少年の発達支援・地域移行支援に関わる研究の動向と課題
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千尋・小山定明・佐野雅之・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における発達上の課題を有する少年の困難・ニーズと発達支援の課題 支援教育課程（N3）在院者への面接法調査を通して
3. 学会等名 日本矯正教育学会 第53回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の発達支援に関する研究の動向と課題 児童福祉施設・矯正教育施設を中心に
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第22回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 71. 神長涼・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・高松健太・高橋智
2. 発表標題 フィンランドの若者支援センターと多様な発達困難を有する若者支援の取り組み
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 73. 柴田真緒・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 ノルウェーにおける薬物・アルコール依存症者の親をもつ当事者ネットワークと子ども・若者支援
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 75. 能田昂・石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける「補助器具センター」と障害者の生活支援
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・柿崎伸二・小山定明・菅谷裕・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における発達上の課題を有する少年の困難・支援ニーズの実態と発達支援の課題（その2） 「支援教育課程（N3）」在院者への面接法調査を通して
3. 学会等名 日本矯正教育学会第54回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の実態と発達支援の課題 B少年院に在院する少年調査を通して
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第24回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・神長涼・高松健太・高橋智
2. 発表標題 北欧における児童虐待の実態と防止支援システムの研究 北欧三カ国の「子どもの権利擁護センターBarnahus」の訪問調査から
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第15回子ども学会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院在院者の面接法調査からさぐる発達上の課題・困難を有する非行少年の支援ニーズと発達支援の課題（その2）
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第7回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 北欧における子ども虐待の実態と防止支援システムの研究 北欧5カ国の「子ども虐待対応センターBarnahus」等の訪問調査から
3. 学会等名 日本教育学会第78回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける子どもの摂食障害と当事者支援 当事者組織「FRISK&FRI」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・高松健太・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける障害者の学び直しと生涯学習の保障 「ヴェスタンヴィークス聴覚障害国民大学」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中裕己・田部絢子・内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 社会的養護と発達困難を有する子どもの発達支援 全国児童心理治療施設調査を通して
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の検討と改善課題 発達上の課題・困難を有する少年院在院者への面接法調査を通して
3. 学会等名 日本矯正教育学会第55回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンの多様な発達困難を有する若者支援：BRISへの訪問調査を通して
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第16回子ども学会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンの引きこもり若者支援プロジェクト 「FINSAM」への訪問調査から
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第16回子ども学会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中裕己・田部絢子・内藤千尋・高橋智
2. 発表標題 児童心理治療施設における子どもの発達支援の課題 職員及び教員調査の比較を通して
3. 学会等名 日本子ども学会学術集会第16回子ども学会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達困難を有する非行少年の発達支援に関する動向と課題 少年院法改正（2015年）以降の施策・研究・実践
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 発達上の課題・困難を有する非行少年の支援ニーズと発達支援の課題 少年院在院者の面接法調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・能田昂・柴田真緒・池田敦子・田中裕己・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける多様な発達困難を有する若者の発達支援 「BRIS（社会における子どもの権利）」への訪問調査から
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 智 (TAKAHASHI Satoru)	日本大学文理学部教授・東京学芸大学名誉教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	田部 絢子 (TABE Ayako)	金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授	